

1

結核の基礎知識

(1) 結核とは

- ・結核とは、「結核菌」という細菌が原因によりおこる感染症です。
- ・発病すると咳、痰、発熱等の症状が出ますが、風邪の症状に似ており発見が遅れることがあります。

高齢者の結核

- ・高齢者は結核の既感染率^{*1}が高く、このため免疫低下に伴い既感染者が発病する危険が高いほか、外因性の再感染^{*2}を起こし、発病しやすいと考えられています。
- ・高齢者結核においては呼吸器症状に乏しい、胸部エックス線検査画像の空洞性病変が少ないなど、典型的な症状が見られないことも多く、早期発見のためには日頃の健康観察や結核に係る定期的健康診断（胸部エックス線検査）の実施と結果の把握が重要です。

(2) 感染と発病

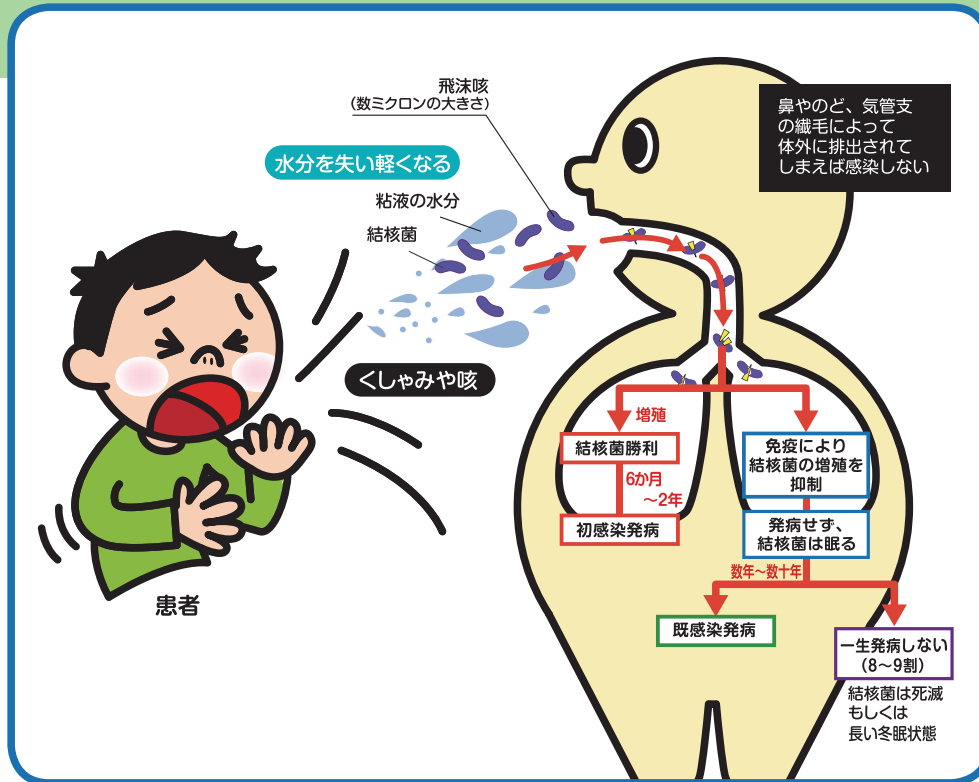
- ・排菌^{*3}している結核患者の咳やくしゃみとともに結核菌が飛び散ります。結核菌は空気の流れによって拡がり、同じ空間にいる人が吸い込むことで感染します（空気感染といいます。）。
- ・感染者の1～2割が発病^{*4}すると言われています。多くは感染後6か月から2年で発病しますが、感染後長い期間を経てから発病する場合があります。
- ・結核を発病しても排菌していなければ、周囲に感染させるおそれは低いと言われています。感染拡大を防ぐためには、患者を早期発見し、排菌する前に治療を始めることが重要です。
- ・患者の使用した物からの接触感染はなく、結核菌だからといって特別な消毒を必要とするわけではありません。

* 1 既感染率：ある人口集団の中で過去に感染を受けた人の割合。

* 2 外因性の再感染：いったん初感染を経過した後に、再び外から結核菌を吸い込み感染すること。

* 3 排菌：結核の症状が進行し、患者が結核菌を外に出し、他の人に感染させるようになること。

* 4 発病：結核菌が体内で増殖し、身体に何らかの異常や症状を引き起こす状態。病状が進行すると咳や痰の中に菌が大量に排泄され（排菌）、感染拡大につながります。



(3) 結核の治療

- ・結核は適切に服薬治療を行えば治る病気です。
- ・結核を発病し周囲への感染のおそれがある場合、入院治療を行います。
- ・結核を発病しているが周囲への感染させるおそれが低い場合、通院治療を行います。
- ・結核の標準治療は、4種類の薬剤を6か月以上服用します（ただし、合併症や副作用があり、4種類の薬剤が使用できない場合は、3種類の薬剤を9か月以上服用します。）。
- ・服薬が不規則であったり中断すると、症状が悪化したり、薬剤耐性菌（薬が効かない菌）をつくってしまうため、結核の治療には確実な服薬が必要です。
- ・また、結核に感染しているが発病していない状態を、潜在性結核感染症といいます。潜在性結核感染症の者から周囲に感染するおそれはありません。服薬治療を行うことで発病のリスクを抑えることができるため、原則としてイソニアジド（INH）という薬を通常6か月間服薬します。
- ・保健所は患者が結核の治療を確実にいくために、DOTS（ドッツ）や服薬ノートなどを通じて服薬支援を行います。

《DOTS（ドッツ）とは》

- ・DOTSとはDirectly Observed Treatment Short-course（直接服薬確認療法）の略です。潜在性結核感染症を含む医療が必要な全結核患者が服薬治療を完了し、確実に結核を治癒させることがDOTSの目的です。
- ・都では結核患者及び潜在性結核感染症の者に対するDOTSを推進しており、その取組の一つとして、患者、保健所、医療機関、施設等の関係機関が服薬状況などを記載することで情報共有を行う服薬ノートを作成し、患者支援に活用しています。